

かけはし

会報 69号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:内藤 孝子
 事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 パロール代々木 415
 TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/



3月11日に発生した東日本大震災により、被災された地域の皆様、そのご家族の皆様にご挨拶申し上げます。

被災地域が一日も早く復興されますことを心からお祈り申し上げます。

特定非営利活動法人 全国LD親の会 第4回総会 および 第10回全国LD親の会公開フォーラムを 開催します

第4回総会および第10回全国LD親の会公開フォーラムを下記の通り行います。なお、総会議事案書等については5月上旬に別途発送します。総会に引き続き、研修会、懇親会を行います。

●第4回総会

日時:2011年6月18日(土)
 12:30～14:00(受付12:00～)
 会場:ドーンセンター 1F パフォーマンススペース
 大阪市中央区大手前1丁目3番49号

●研修会

日時:2011年6月18日(土)
 14:30～17:30(受付14:15～)
 会場:ドーンセンター 1F パフォーマンススペース
 大阪市中央区大手前1丁目3番49号

テーマ:

LD等の発達障害の子どもへの学習支援にむけて
 —親の会と専門家との連携—

講師:山田 充 (堺市立日置荘小学校)
 嶋谷 和之 (大阪市更生療育センター)

趣旨:

全国LD親の会では、2009年度から日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース(教材・教具DB)を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組んでいます。

◎子どもの成長を見据えた、長期的な視野にたったサポート

◎子どもを中心に、関係する多方面における専門家と連携したサポート

という趣旨のもと、教育現場における教材・教具のみならず、就労・自立を見据えた子どもの生活全般にわたるサポートも含めて個別の指導計画作成の参考となるよう、具体的な教材・教具の活用方法についての研修会を開催しています。準備や開催後の連携を視野に入れて、全国LD親の会加盟の開催地域の親の会を中心に、特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って進めています。

2009年11月新潟市、2010年2月佐賀市、2010年5月秋田市、2010年11月大垣市、2011年2月徳島市にて教材教具研修会を開催し、講演とワークショップというプログラムや具体的な指導方法の提案が大変好評で、開催後のそれぞれの地域活動に結びつき始めています。

今年度の研修会では、本事業の講師をお願いしている山田先生、嶋谷先生をお迎えし、サポートツール全国キャラバン「教材教具研修会」のワークショップの一部の紹介と、研修会を開催した親の会からの開催後の地域での連携等について報告をいただきます。

LD等の発達障害がある児童生徒に対して質の高い支援をおこなっていくための具体的実践の報告が、今後の各親の会の活性化の示唆になることを願っています。

●懇親会

日時:2011年6月18日(土)
 17:50～19:30(受付17:45～)
 会場:ドーンセンター 1F レストラン ゆいま～る
 会費:5,000円

●第10回全国LD親の会公開フォーラム

日時:2011年6月19日(日)
 10:15～17:30(開場9:50)
 会場:ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)7F ホール
 主催:NPO 法人全国LD親の会
 参加費:1,500円(LD親の会会員は無料)

企画

平成17年4月に発達障害者支援法が施行されてから6年が経過し、発達障害のある人への支援は、教育、福祉、医療、労働の各分野で着実に進んできており、各分野において、発達障害者を対象とした支援施策が次々と打ち出されています。

ところが、一人ひとりの発達障害のある人や家族から見ると、現状は自分たちがニーズの応じた支援が得られている実感は少なく、本人はその生きづらさに戸惑い、たちすくみ、家族は子どもの将来に大きな不安を抱えています。

そこで今回のフォーラムでは、発達障害者支援の第一線で活躍されている教育の専門家、教育ジャーナリスト、行政の方、支援機関の方、企業の方に登壇をお願いし、講演、行政解説、トークセッションを企画しました。トークセッションでは、本人たちの体験談を聞く場を設けました。また、親の会がおこなった青年期、成人期の実態調査の報告も行う予定です。

発達障害のある人の一人ひとりのニーズに応じた適切な支援を実現するためには、今、何が求められているのか、発達障害のある人の自立・社会参加にむけての課題とその解決への方策について参加者とともに考えていきます。

プログラム

- 10:15 開演挨拶
- 10:20 基調講演
「発達障害のある人の自立・社会参加に必要なこと
～日本・アメリカの教育的支援から学ぶ～」
竹田 契一(大阪教育大学名誉教授)
- 11:20 特別講演「発達課題とともに生きるために」
品川 裕香(教育ジャーナリスト)

- 12:20 実践報告
「教育から就業への実態調査報告書Ⅲ」の概要
内藤 孝子(NPO法人全国LD親の会)
- 13:30 行政解説&トーク
行政報告
厚生労働省 障害保健福祉部 障害福祉課
厚生労働省 高齢・障害者雇用対策部
障害者雇用対策課
コーディネータ 山岡 修 (NPO法人全国LD親の会)
- 15:00 トークセッション1
働いている発達障害のある方(2名)
コーディネータ 品川 裕香(教育ジャーナリスト)
- 15:45 トークセッション2
<支援機関>
新澤 伸子
(大阪府発達障がい者支援センター「アクトおおさか」)
乾 伊都子(大阪市職業リハビリテーションセンター)
- <企業>
三洋商事株式会社
コーディネータ 内藤 孝子 (NPO法人全国LD親の会)
- 17:30 終演挨拶

●青年の交流会

- 日時：2010年6月18日(土) 13:15 集合
- 場所：pia NPO 2F 会議室 201
大阪市港区築港2丁目8-24
- テーマ：海遊館へ行こう
- プログラム：13:30～14:30 自己紹介など
15:00～17:30 海遊館他
18:00～20:00 懇親会
- 参加費：6,000円(海遊館入館料・懇親会の費用を含む)

●第8回理事会報告

- 開催日時 2011年2月20日 16:00～16:30
- 開催場所 渋谷区文化総合センター大和田 活動室7
- 出席者 大曲 千代子・丹藤 登紀子・東條 裕志・内藤 孝子・山岡 修
- 【議案】 第一号議案 NPO法人全国LD親の会 第7回役員会における審議結果の承認
第7回役員会における審議結果を審議し、全員一致でこれを承認した。

(決議事項)

- ・ NPO 法人全国 LD 親の会第4回総会の招集
- ・ NPO 法人全国 LD 親の会平成23年度事業計画及び予算(案)
- ・ NPO 法人全国 LD 親の会運営規則の修正
- ・ 2011年度 発達障害児のためのサポートツール・データベース事業の実施(継続)
- ・ 2011年度 民間組織・支援技術を活用した特別支援教育研究事業の実施(継続)
- ・ 第10回全国LD親の会公開フォーラム テーマ「発達障害のある人の自立・社会参加に必要なこと」
- ・ 2011年度 全国LD親の会研修会テーマ「LD等の発達障害の子どもへの学習支援にむけて～親の会と専門家との連携～」
- ・ 2011年度 連携機関への加盟(継続)

全国LD親の会公開フォーラム in 福岡 報告

日時：2011年1月16日(日) 10:00～17:00

会場：ふくふくプラザ(福岡市市民福祉プラザ) 1Fふくふくホール

テーマ：発達障害のある人のライフステージを通じた支援に必要なこと

～最新情報を踏まえ、乳幼児期から就労期までの支援を考える～

報告 内藤 孝子 (NPO法人全国LD親の会)

「教育から就業への移行実態調査の結果
～全国LD親の会員調査3時点比較から～」

講演 上野 一彦 (東京学芸大学名誉教授)

「発達障害のある人のライフステージを通じた支援」

講演 日詰 正文 (厚生労働省発達障害対策専門官)

「発達障害支援行政の最新情報と課題」

シンポジウム

「発達障害のある人の

ライフステージを通じた支援に必要なこと」

砂後 典之 (佐賀県教育庁教育政策課)

平島ユイ子 (福岡市立老岐東小学校)

田中 清 (有限会社化成フロンティアサービス)

大曲千代子 (NPO法人全国LD親の会・

北九州LD親の会「すばる」)

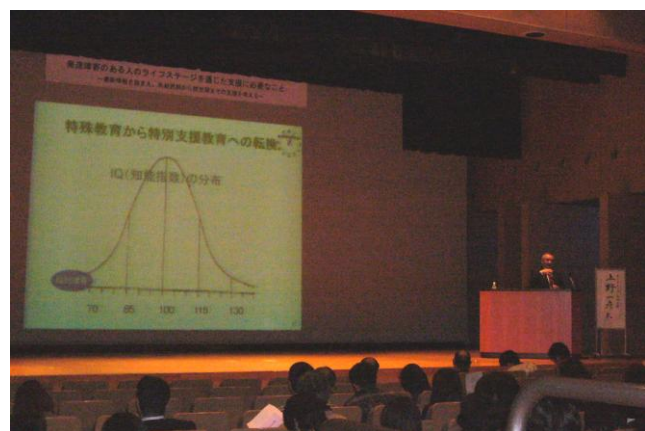
岩永竜一郎 (長崎大学)

指定討論

上野 一彦 (東京学芸大学名誉教授)

内藤 孝子 (NPO法人全国LD親の会)

者の気持ちを熱心に代弁して下さい、涙される場面がありました。また、日詰氏はともすれば難解な中央行政の施策の最新情報にわかりやすいエピソードを交えて大変和やかに話し下さり、最後には「これからも頑張っていきたいと思っています」という決意も語って下さいました。こういったお話に参加者の方からは「厚労省へのイメージが変わりました」などの感想を頂き、心も温まるフォーラムでした。



全国LD親の会設立20周年記念フォーラムが、札幌に続き福岡で開催されました。当日は寒波の影響で大雪、九州内の高速道のほぼ全線が通行止めという大荒れの天候の中でしたが、午前中は内藤理事長報告、上野先生講演、午後からは日詰氏の講演、さらに九州で先進的な取り組みを実践されている先生方によるシンポジウムと、大変盛りだくさんな内容のフォーラムとなりました。

家族および教育、福祉、行政の関係者を中心に、福岡、佐賀、長崎、熊本の九州各地から179名のご参加を頂き、九州全体での支援を進める貴重な機会になりました。丸1日の長丁場ではありましたが、開催前夜は内藤理事長と日詰氏を囲んでコラーゲンたっぷりの博多地鶏水炊きで暖まり、当日は先生方の熱い思いや熱心な取り組みに胸の熱くなる思いが致しました。中でも上野先生が私達保護

以下、参加者アンケートより感想の抜粋です。

- * 発達障害に関わる皆様の集まりに初参加。若者のキャリアアカウンティングにかかわり発達障害？と思える相談者との出会いで勉強の必要性を感じ、参加しました。関係者の皆様のご苦勞に感銘を受けました。
 - * シンポジウムで行政・教育・就労先・親の会の立場から多方面にお話を伺うことができ、とても参考になりました。とても学びの大きな会でした。
 - * 就学前の子どもたちの療育に関わっていますが、改めて先を見通した支援の重要性を感じました。常に学校・社会を意識した支援を行っていきたいと思いました。
 - * 知らない情報がたくさんあって参加してよかった。各講師の方々が詳しい資料を提示してあり、非常にわかりやすかった。
 - * 教育現場の管理職は「昔からそんな子どもはいた」と言っていて発達障害を理解しない場合がある。日詰先生のお話で、「知らないと嫌いになる」という言葉に納得しました。まずは相手を「正しく理解する」ことが必要だと思いました。
- 最後になりましたが、本全国親の会フォーラムin福岡の開催は地域活動の活性化につながり、またブロック内の交流も深まりました。貴重な機会を頂き、大変有難うございました。

(梅野)

発達障害を含む特別支援教育におけるNPO等活動体系化事業(文部科学省)

「特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業」中間報告

本事業は、文部科学省が実施した「発達障害を含む特別支援教育におけるNPO等活動体系化事業」(平成 21 年度)、「民間組織・支援技術を活用した特別支援教育研究事業」(平成 22 年度)を特定非営利活動法人全国LD親の会が受託し、「特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業」として取り組んでいるものである。

平成 19 年4月に特別支援教育が制度としてスタートし、発達障害を含む様々な障害のある児童生徒に対する学校生活上の介助や学習活動上の支援などを行う「特別支援教育支援員」の配置が地方財政措置により開始された。平成 22 年度には全国で3 万人以上が配置されており、その対象も小・中学校をはじめ幼稚園や高等学校へと広がってきている。

また、平成 22 年 3 月に公表された文部科学省「特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議・審議経過報告」では、特別支援教育を推進する上で、今後、有償・無償の学校支援ボランティアの活用を図っていくことが必要と提言されている。これとは別に、家族同士という立場で保護者やきょうだいへの相談を行うピアカウンセリングの有効性も注目されているところである。

一方、これらの学校教育現場で活用される支援員等に関して、その資格要件・資質、養成や研修の実施については、実施主体である市町村に委ねられており、バラツキや学校現場での混乱等も指摘されている。「特別支援教育支援員を活用するために」(文部科学省 平成 19 年 6 月)には、「特別な支援が必要な児童生徒に、適切な対応ができるようにするためには、効果的な研修が必要であり、各自治体において独自に内容等を設定し実施することが肝要です……特別支援教育支援員という、せつかくの人材が効果的に活用され、児童生徒に適切な対応ができるようにするとともに、学校全体での対応の一翼が担えるようにするためにも、研修内容等を工夫することが大切です。」と述べられているが、研修を効果的に実施できている自治体は少ないのが現状である。

こうした実態をふまえ、全国LD親の会では特別支援教育支援員や学校支援ボランティアの質的な向上に資することを目的に、3 年計画で特別支援教育支援員や学校支援ボランティアの養成研修の体系化・標準化を図るなどの養成方法の研究に取り組んでいる。渋谷区教育委員会をはじめ、日本LD学会、特別支援教育士資格認定協会のご協力を得、さらに障害者団体、職能団体、校長会等の関係団体からご意見をいただきながら進めている。

(1)対象とする支援員等の種類

本研究では、教員や心理職等の専門職以外に特別支援教育を支える人材として、平成 19 年度から活用が始まった「特別支援教育支援員」、今後活用が期待される有償・無償による「ボランティア支援員」、ペアレントメンター等の名称で取り組み始まっている「家族支援ピアカウンセラー」を対象として、その養成方法等の開発を行っている。

① 特別支援教育支援員(学習支援員)

特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する介助、学習支援、保護者に対する相談支援が行える者。

② 特別支援教育支援員(介助員)

特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する介助、保護者等に対する相談支援が行える者。

③ ボランティア支援員

特別支援教育現場における学校支援ボランティア(有償・無償)等として、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する補助的な支援、地域における療育機関での補助的な業務、保護者等に対する相談支援が行える者

④ 家族支援ピアカウンセラー

家族同士という立場で、家族支援のピアカウンセリングを行える者

(2)研究事業の手順

①カリキュラム体系の策定

文部科学省委託研究等の先行事例、渋谷区の学校長に対する支援員に求める資質や養成講座の内容の希望等のアンケート実施、障害者団体、心理・OT・PT・ST等の職能団体、校長会、肢体不自由特別支援学校長経験者等からなる外部諮問委員からもご意見を聴取した上で、学習支援員コース、支援員コースのカリキュラム案を策定した。

②養成講座の試行実施

1 年次は、平成 22 年 1～2 月に渋谷区で、学習支援員コース(17.5 時間(3 日)+学校見学)、支援員コース(11.5 時間(2 日)+学校見学)、計 30 名の受講生を対象に養成講座を試行実施した。日本LD学会等の協力も得て、特別支援教育や発達障害分野で著名な一線クラスの講師陣により、充実した講座を実施できた。

2 年次は、平成 22 年 12 月に渋谷区で、学習支援員コース(17 科目、25 時間(4 日))、支援員コース(14 科目、19

時間(3日))、計44名の受講者を対象に養成講座を試行実施した。(かけはし68号で紹介) また、平成22年度はあらたに、ボランティア支援員コース(9科目、12時間(2日))、家族支援ピアカウンセラーコース(9科目、12時間(2日))を平成23年1月に大阪市で試行実施した。計67名の受講者があった。近畿ブロックを中心に親の会からの参加は51名。

ボランティア支援員コース・家族支援ピアカウンセラーコースのプログラムを下記に紹介する。

第1日 平成23年1月22日(土) 9:30～17:50
(ボランティア支援員コース・家族支援ピアカウンセラーコース共通)

(家族支援ピアカウンセラーコース)

6	家族支援概論 井上 雅彦(鳥取大学)
7	ペアレントメンターとは 氏田 照子(日本発達障害ネットワーク) 加藤 香(愛知県自閉症協会)
8	相談の技術と基礎知識 井上 雅彦(鳥取大学)
9	ロールプレイ演習、グループ相談演習 井上 雅彦・氏田 照子・加藤 香
	修了式



受講生からの評価は、全体のカリキュラムについては、「適切に網羅していた」50%、「おおむね網羅した」46%、講座の満足度は「とても満足している」73%、「やや満足している」27%という結果で、全般的に高い評価をいただいた。また、「支援員の活動状況や実情報告も聞きたかった」「事例検討やワークをもう少し増やせば有効だと思う」「もっと時間をかけて密度の濃いカリキュラムをこなしていくようにするのが望ましいと思う。今回の内容を今後どれだけ咀嚼、フォローし還元できるか自信が持てない。」「もっと勉強したい意欲が出てきた。さらに続けて講習を受けられるよう実施してほしい」など、今後の課題についてご意見も頂くことができた。

(3)シラバスの策定

講座毎の内容の明確化、標準化を図るためにカリキュラム体系を構成する科目について、シラバスを策定した。シラバスは、定型のフォーマットを定め、①当該科目に含むべき事項、②概要、③到達目標、④キーワードを、養成講座の講師や学識経験者に素案を策定していただき、実行委員会委員により、内容・形式・用語の統一等の調整を図り策定した。2年間で24科目のシラバスを策定した。(1年次は19科目、2年次は5科目)3年次の研究においては、さらに精査し、研究成果としてまとめる予定である。

	科目
	オリエンテーション
1	ボランティア支援員としての業務や心構え 大谷 和夫(池田市立石橋小学校)
2	特別支援教育概論 竹田 契一(特別支援教育士資格認定協会)
3	主な障害の特性の理解 竹田 契一(特別支援教育士資格認定協会)
4	子どもへの対応の基本 米田 和子(NPO法人ラヴィータ研究所)
5	障害のある子どもの心理 米田 和子(NPO法人ラヴィータ研究所)

第2日 平成23年1月23日(日) 9:40～16:50
(ボランティア支援員コース)

6	学校・学級での支援の仕方、担任との連携の仕方 小田 浩伸(大阪大谷大学)
7	子どもの特性と対応方法 小田 浩伸(大阪大谷大学)
8	子どもの特性と対応方法 森田 安徳(吹田市立千里たけみ小学校)
9	ロールプレイング、グループ討議 森田 安徳(吹田市立千里たけみ小学校)
	修了式



親の会設立準備を進めています！ 和歌山県 大分県 岡山県

●和歌山県LD等親の会「ほっぷ」設立総会開催

<座談会>

2011年2月6日(日)13:30～16:00

場所：中央コミュニティーセンター 活動室3

テーマ：「教師の気持ち、親の気持ち」

ほっぷの登録メンバーを含めた15名の保護者が集まり、簡単な自己紹介の後、自由に話し合いをしました。

- ・4月から小学校に入学するので、先生と話し合いたいが、いつ行けばいいのか？
- ・子どものことをどこに相談に行けばいいのか？
- ・発達障害のことを先生方は知っているのか？
- ・告知をどんなタイミングでしていったらいいのか？

小学校のサポート教室やことばの教室の先生3名もいらしてくださったので、いろいろアドバイスをいただきました。学校の先生と上手くコミュニケーションを取り、仲良くなっていくことや、生育歴や特性、上手くいったやり方を紙に書いて渡すといいこと、入学式の場所や流れを教えてくださいハーサルするとスムーズに行くことなど教えていただきました。一番大事なことは、母親が元気になることではないかという話も出て、いろいろ話し合いができました。(ほっぷ登録会員)

<設立総会&記念講演会>

*設立総会:2011年5月29日(日)11:00～12:00

場所：中央コミュニティーセンター 活動室1
和歌山市三沢町1丁目2番地

*記念講演会:2011年5月29日(日)13:30～16:00

場所：中央コミュニティーセンター 1階 多目的室小
13:30～14:00 「自立にむけて必要なこと

～全国LD親の会の取組からわかってきたこと～

内藤 孝子 (NPO法人全国LD親の会)

14:00～15:15 「出口を見通した

発達障害への子どもの対応

～自己理解と自己受容に向けて～

米田 和子

(特別支援教育士 SV・臨床発達心理士)

15:25～15:55 質疑応答

2009年9月のNHK ハートフォーラム開催を機に、和歌山での親の会設立準備会を重ねてきましたが、5月に設立総会を開いて、親の会として新しい1歩を踏み出すことになりました。発達障害の子どもを持つ和歌山の保護者はもちろんのこと、活動を応援して下さる方もサポート会員としてご参加いただければと思っています。

設立総会終了後、午後からは米田和子先生をお迎えして、設立記念講演会を開きます。

(井上)

●大分県における親の会設立準備

大分県も昨年9月より準備を重ねてきました、親の会設立に向けての講演会を開催しました。

「全国LD親の会 特別支援教育講演会 IN 大分」報告

日時:2011年2月27日(日)13:00～15:30(開場 12:30)

会場:コンパルホール(大分市)3階 大会議室

講演:清末 直樹

(大分県教育委員会 特別支援教育課 指導主事兼主幹(統括))

講演:月森 久江

(東京都杉並区済美教育センター指導教授・元杉並区立中瀬中学校情緒障害「通級指導学級」担当・特別支援教育スーパーバイザー)

清末主幹からは「大分県における特別支援教育の取り組みと展望」というテーマで、発達障害の概念や関係の法律、「大分県特別支援教育推進計画」に基づいて取り組まれている各事業の支援内容を、丁寧に解りやすい言葉で、ご講和いただきました。

月森先生には「発達障害のある子どもたちへの学校や家庭での取り組み」というテーマで、発達障害のある児童生徒の困り感や「聞く力を養う」・「話す力を養う」など具体的なお話をいただきました。

この講演会は事前予約のうちから定員を上回る申し込みがあり、当日受付の方々にはスクリーンが見えづらいなど、ご不自由をおかけしましたが、明日からの教室ですぐに使えるような実用性のある講演会であったとの声が多く聞かれました。また講演会を開催してほしいとの意見もありましたので、親の会設立準備会の中で検討していきたいと思います。

「大分県LD等発達障害親の会設立準備会」報告

座談会:講師・全国LD親の会九州ブロック役員

座談会:全国LD親の会九州ブロック役員・会員

「特別支援教育講演会IN大分」終了後、親の会設立に関心のある方にお集りいただき、全国LD親の会の活動や親の会設立の趣旨を説明しました。また、佐賀夢気球の山内会長や北九州すばるの小林会長が会の活動内容などをお話して下さいました。併せて、元の大分の親の会、ハーモニーのメンバーの方から大分での活動の様子などを話していただきました。

参加者からは現在活動している他の発達障害の親の会との兼ね合いなどの質問がありました。1時間余りの懇談でしたが、設立準備会には22名の登録があり、関心の高さを感じました。第1回の設立準備会は4月23日(土)10時からコンパルホールで開催の予定です。

(大曲)

●岡山県での親の会設立準備説明会開催

日時:2011年3月19日(土)16:15~17:30

会場:岡山県総合福祉会館 4階 第2会議室

去る3月19日(土)に岡山市総合福祉会館で開催されましたNHK ハートフォーラムの後、同会館の別室において岡山県LD等発達障害親の会設立準備説明会を開催しました。近畿ブロックより、内藤理事長・井上評議員・高橋の3名が参加しました。

NHK ハートフォーラムでは、開始の30分前には、早くも参加者が集まり始め、岡山での発達障害・特別支援教育への関心の高さを感じました。

フォーラム後の説明会には、11名の参加がありました。内藤理事長から全国LD親の会の活動概要や活動趣旨の説明の後、岡山での親の会の設立を呼びかけたところ、参加者からは是非協力したいという積極的な意見が溢れました。

さらに全国LD親の会から、7月ごろに準備会を持つとの提案をしまして、それまで待てないという頼もしい

反応が返ってきました。閉会後にはさっそく数名の参加者で翌月にも集まろうという話が進んでいました。連絡係には保護者2名と教員1名が引きうけてくださり、予想以上にスムーズに説明会が運び、ひとまず胸をなでおろしています。

今回説明会の運営をお手伝いし、空白県といっても、やはり親の会のニーズはあるのだということを改めて確認できました。同時に、新しい会を作ろうというみなさんの熱意に触れ、私自身も親の会の一員として活動し始めた十数年前を振り返るよい機会になったと思っています。(高橋)

●群馬県での親の会設立準備

1月30日(日)に群馬県にて発達障害者支援県民シンポジウムが開催されました。その際に発達障害者支援センター長の許可を得て、全国LD親の会リーフレットと「群馬県親の会の設立準備のための協力者名簿」を置くコーナーを用意して頂き10名の方の登録がありました。夏頃に準備説明会を開催する予定です。(丹藤)

発達障害児のためのサポートツール・データベース事業



「発達障害児のためのサポートツール・データベース事業」の2010年度事業内容を、「発達障害児のための教材・教具データベースの構築と普及」事業の成果物として、日本公益図書館(<http://npil.canpan.info/about.html>)に登録・公開しました。

1. データベースへのサポートツール掲載追加

2010年4月時点では673件のデータが掲載されていましたが、2010年度は11月に2件のツール及び実証データ、3月には下記212件をデータベースに追加することができました。現在887件ですが、今年度は最終的に1,000件以上の掲載数を目標に事業を進めていきます。

区分1 国語	90件
区分2 算数	41件
区分4 運動と姿勢	15件
区分6 行動	20件
区分7 対人関係・社会性	46件
合計	212件

2. 「私の部屋」「ついたて」「棚」の作成



「私の部屋」は、自分をコントロールするために、いらいらしたり、パニックになったりしたときに気持ちを落ち着かせる場所です。

子どもが中にこもることができますが、何かあった場合にはすぐ開閉ができるよう、屋根の部分がクリップで留めただけの構造になっています。

机の間のついたては高さ116cmです。座っている子どもには、隣が見えない高さであり、立って指導している教員にとっては、両側の子どもを見る事ができるという高さに設定しました。



その他、B4のプリントが収納できる課題棚やそれぞれの教室のニーズに応じて棚の仕切り位置などを変えたロッカーなどを作成しました。

3. サポートツール全国キャラバン 2010 in 徳島

2011年2月6日(日)、徳島のあわぎんホールにて、徳島の親の会「あおぞら」と共催で、教材教具研修会を開催しました。親の会会員18名、一般61名、合計79名の参加がありました。

2011年度は、下記の3か所で開催する予定です。

●札幌会場 2011年6月5日(日)

会場:札幌市教育文化会館

●広島会場 2011年9月4日(日) 会場未定

●横浜会場 2012年2月予定

詳細は、NPO法人全国LD親の会のHPに掲載します。

(井上)

「JDDNET災害支援基金」へのご協力をお願い

日本発達障害ネットワークでは、厚生労働省からの依頼を受け、被災地で生活する、もしくは避難している発達障害のある子どもや大人たち、あるいは同様の支援ニーズのある皆様のための支援として現地に専門家を派遣し、必要な支援ニーズを調査し、支援につなげていく役割を担っていくことと致しました。すでに派遣候補となる専門家のリストアップも進み、現地に入る準備を進めております。こうした被災地支援の場合、団体ごとに必要な資金の調達をはじめ準備を進める必要があります。多くの皆様のご支援が必要です。ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

JDD ネットでは、この度「JDDNET 災害支援基金」を設立し募金活動を行います。集められた基金の状況や使途、支援活動の状況等についての詳細は、JDD ネットホームページ等で順次、ご報告していきます。

ぜひ、会員団体の皆さまが主催されるイベント会場などにおける募金活動ならびに下記の「JDDNET 災害支援基金」口座への募金のご協力をお願い申し上げます。

「JDDNET 災害支援基金」

口座名義 一般社団法人日本発達障害ネットワーク

郵便口座 00140-4-512540

他の金融機関からの振込 ○一九(ゼロイチキュー)店(019) 当座 0512540

この口座は「JDDNET 災害支援基金」専用口座です。コンビニなどの ATM から振込できます。

尚、皆さまから寄せられた「JDDNET 災害支援基金」は、被災地への専門家チームの派遣に要する費用ならびに派遣の際に持参する文具や ASD 向けの玩具などの購入費用に充てられます。

派遣チームの責任者には、日本発達障害ネットワークの副代表の辻井正次中京大学現代社会学部教授があたり、第一陣は以下のメンバーで4月6日(水)より被災地に入ります。

■発達障害専門家派遣チーム

代表：辻井正次（中京大学教授） 木谷秀勝（山口大学教育学部教授） 堀江まゆみ（白梅学園大学教授）

萩原拓（北海道教育大学旭川校准教授） 小倉正義（鳴門教育大学講師）

中島俊思（浜松医科大学特任助教(福島県のみ)） 望月直人（浜松医科大学特任助教(宮城県のみ)）

派遣日程：2011年4月6日(水)-13日(水)

派遣予定：2011年4月6日-10日 宮城県内 2011年4月10日-13日 福島県内

派遣拠点：宮城県内 Schale おおまち(仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル3階) Tel&fax 022-263-1402

福島県内 福島大学人間発達文化学類 内山登紀夫研究室（福島県福島市金谷川1番地）

★「知的障害・発達障害関係団体災害対策連絡協議会」設置

東日本大震災で被災された岩手、宮城、福島の知的障害・発達障害児者の支援体制を確立するために「知的障害・発達障害関係団体災害対策連絡協議会(会長:中原施設協会会長)」が設置されました。

【構成団体】

日本知的障害者福祉協会、全日本手をつなぐ育成会、日本発達障害ネットワーク、全国地域生活支援ネットワーク、障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会、全国重症心身障害児(者)を守る会、全国肢体不自由児・者父母の会連合会全国児童発達支援協議会、日本相談支援員協会(調整中)

★災害時の発達障害支援に特化した情報

(JDD ネット HP より <http://jddnet.jp/>)

◎発達障害情報センター <http://www.rehab.go.jp/ddis/>
災害時の発達障害児・者支援について

◎日本自閉症協会 <http://www.autism.or.jp/cgi-bin/saigai/>
東日本大震災支援専用ページ
防災ハンドブック

(本人・家族向け)(支援者向け)

◎愛知県自閉症協会

<http://homepage2.nifty.com/tubomi-aichi-autism/>
発達障害の人のための応用サポートブックの提供
応用サポートブックPDF印刷用シート

● 特別寄稿 ●

障がい者制度改革推進会議総合福祉部会の 取り組みから

氏田照子
(総合福祉部会構成員、JDD ネット副代表)

2010年1月より、障がい者制度改革に向けた集中的な取り組みが開始され、障害者基本法の抜本的改正、障害者自立支援法の見直し、障害者差別禁止法案や障害者虐待防止法案等の議論など、障害者問題に関する重要事項の検討が推進会議、総合福祉部会、差別禁止部会において急ピッチで進められている。

総合福祉部会は、障害者自立支援法をめぐる論点に関する検討を含めた障害者に係る総合的な福祉法制の制定に向けた検討を行うことを目的に設置されたもので、障害者自立支援法を廃止し、障がい者総合福祉法(仮称)を提案することがその主な役割となる。

第1回～3回の部会においては、「障がい者総合福祉法(仮称)」(以下、総合福祉法)の制定までの間において当面必要な対策についての議論、さらに、新法の実施以前に早急に対応を要する課題の整理を行い、当面の課題(素案)として親会議である推進会議に提案。第4回では、総合福祉法制定に向けた論点整理を行い、第5回～第7回において、総合福祉法の論点(法の理念・目的・範囲、障害の範囲、選択と決定、支援(サービス)体系、地域移行、地域生活の資源整備、利用者負担、報酬や人材確保など)についての議論を行った。

また、10月から1月までを第1期作業チームの検討期間とし、9つの作業チーム(①法の理念・目的、②障害の範囲、③選択と決定・相談支援プロセス、④訪問系、⑤日中活動とGH・CH・住まい方支援、⑥地域生活支援事業の見直しと自治体の役割、合同、⑦就労(労働及び雇用)、⑧医療(精神医療分野)、⑨障害児支援)によりテーマ別に検討が行われた。

第12回の全体会においては、今後の取りまとめに向けて第1期作業チーム報告書総論に対する厚労省からのコメントが発表された。厚労省のコメントを受けて佐藤久夫総合福祉部長からは「改革の視点が感じられない。われわれの部会は権利条約と基本合意文書に基づいて、推進会議の議論をふまえながら「改革の視点」で取り組んでいる。厚労省のコメントでは権利条約、基本合意文書は引用されず、地域主権戦略大綱などの引用でどのように改革しようとしていくのかみえない。厚労省がいままで蓄積しているノウハウ、改革していく上での工夫、方策、裏技、ウルトラCなどを出していただき、一緒になって新しい法律の骨格をつくっていただきたい。今後の作業チー

ムでも協議しながらやっていってほしい」との苦言が呈された。

続く2月から4月までを第2期作業チームの検討期間とし、8つの作業チーム(①地域移行、②利用者負担、③選択と決定・相談支援プロセス(程度区分)、④報酬や人材確保等、⑤地域生活の資源整備、合同、⑥就労(労働及び雇用)、⑦医療(その他の医療分野)、⑧障害児支援)により検討が開始された。5月には報告書の提出を行い、6月～7月に新法の骨格整理、8月に新法の骨格提言を行う予定である。

一方、2月14日に第30回推進会議が開催され内閣府から「障害者基本法改正案」の原案が示されたが、推進会議の提言の肝心な部分がほとんど反映されておらず委員たちは実効性のある改革を求めた。推進会議は2月28日、3月7日と二度にわたり開催が延期されている。政府は3月11日に障がい者制度改革推進本部の会合を開き、障害者基本法改正案を了承、基本法改正案は3月半ばの閣議決定を経て今国会に提出、会期中の成立をめざし、障害者権利条約の批准に向けて進めていく予定であったが、3月11日の東北地方太平洋沖地震の影響で遅れており、また3月14日に開催が予定されていた第31回推進会議ならびに3月15日に開催が予定されていた第13回総合福祉部会ともに延期となり、推進会議は4月18日、総合福祉部会は4月26日に再開される予定である。

総合福祉部会で検討が進められている障害者総合福祉法案(仮称)は、2012年に国会提出、2013年8月施行、また、2013年には障害者差別禁止法案(仮称)が国会に提出される予定である。障害者基本法の次に続く障がい者総合福祉法(仮称)をより確かなものとするためにも、まずは基本法がしっかりと改正されなければならない。

新しい法律の制定に向けて多くの課題が山積しているが、発達障害の人たちの日常生活上の困難さや支援ニーズを客観的に把握し、必要なサービスを提供できるようにしていく必要がある。また、自分で声をあげることが難しい発達障害の人についても取り残されることなく、一人ひとりの声がきちんと反映されるような権利擁護のしくみが盛り込まなければならない。同時に、新法の施行に向けて、一人ひとりの支援ニーズの評価方法や地域で生活していくための具体的な支援メニューなどを計画的に準備する必要がある。

アセスメント、ケアマネージメント、アドボケイト、ソーシャルワークなどをキーワードに新法を提案したいと考えている。

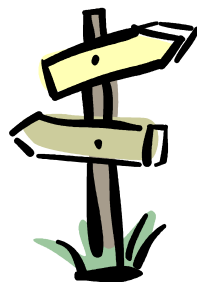


一般社団法人日本LD学会 第20回大会案内

日時：2011年9月17日(土)～19日(月・祝) 会場：跡見学園女子大学 文京キャンパス

【大会メインテーマ】「あらためて問う発達障害児の学習支援 ―知能・学力・生きる力―」

※全国LD親の会企画シンポジウムについては、別途お知らせします。



親の会紹介のポスター展示に 参加しましょう！！

昨年、愛知県立大学にて開催された日本LD学会第19回大会には、11の親の会紹介ポスター展示参加がありました。毎年、かけはしでポスター展示についてのお知らせをしていますが、模造紙(名古屋辺りではB紙というらしいですが)に書く要領が良くわからなくて・・・という声も良く聞きます。

そこで、昨年ポスター展示参加した会に、ポスター作成のコツや展示の感想について聞いてみました。毎年参加しているベテランの会やLD学会大会で他の会のポスター展示を見て参加するようになった会など、たくさんの会からコメントをいただきました。

明日葉では2008年に、日本LD学会大会が広島で開催されたのをきっかけに、毎年ポスター展示をさせてもらっています。はじめは、紙の大きさ、形式、内容など、皆目見当もつかず、こんなことならもっとまじめに学会に参加しておけば良かったと悔やむばかり…。でもせつかく作るのなら、学会に来られる先生方や保護者に、明日葉の活動をアピールできるような内容にしようと話合いました。試行錯誤しながらの作業でしたが、記事を作っていると、楽しかったことや頑張ったこと等、色々思い出せましたし、4コマ漫画をいれようとか、子ども達の切り紙で飾ろうとか、色々アイデアも出てきて、結構盛り上がりました。印刷は、協働センターで、A1サイズの印刷ができたので、パソコンで原稿を作ったあとは一気に印刷できました。学会当日、全国から送られてきたパネルを見て、「こんな風にすれば良かったのか！」という反省は多々ありましたが、初回参加としては、まずまずの出来かなと自画自賛です。

その後は、作り方を忘れないためにも、パネルはできるだけ毎年出そうと言うことになりました。発送は、印刷所のA1ロール紙の芯を分けてもらって、その中に巻いたパネルを入れて送っています。昨年で3回目ですが、内容のマンネリ化が悩みです。もし前年度の各親の会のパネルがHP等で参照できたら、いろんなアイデアが得られて助かるかなと思います。でも、作り方のノウハウだけでなく、パネルの内容が濃くなるような充実した活動が何より大事ですね。これからもがんばりたいと思います。(明日葉)

ポスターを作るときに、会の全体の紹介はもちろん、具体的に活動内容が分かるように、活動の見出しごとに簡単な説明や写真を入れて作りました。他県のポスターを見て、どんな活動をしているのかとても参考になりました。メインになる活動を大きく取り上げて載せてもいいなあと思いました。(れんげの会)

会の活動を紹介するにあたり、一目で伝わるように心がけて楽しみながら作成しています。(クローバー)

写真のレイアウト、切り紙が得意、貼るのが上手、等々の複数の会員が係わって学園祭のような乗りで制作しています。内容も会の紹介だけでなく、アピールしたいことや、調査の結果の紹介、要望活動など、その年の会の活動状況に合わせて柔軟に決めています。(にんじん村)

LD学会大会でのポスター紹介は毎回やっているのでも、ここ数年は前年のものを手直すことで作っています。内容のベースは、会の紹介リーフレットです。それに、写真などを多く入れました。

前は、家庭用プリンターで印刷したものを張り合わせて作っていましたが、最近はデータ持ち込みでの大版印刷がそんなに高くないのでそれを利用して、手間が少なくきれいにできます。(かたつむり)

全体のイメージはまっすぐに伸びた「けやき」の木。それぞれの枝先には、「活動紹介」の葉が茂るようにお願いしながら、分担し合って作成しています。(けやき)

作ったポスターを毎年保存し、主催講演会の際にロビーに展示して活動PRに再利用しています。(たけのこ)

「翼」のポスターは代々伝わる4代目ポスター。初代ポスターから皆で楽しく張替えて、ハイ完成！(翼)

会員構成、全体行事、グループ活動の紹介をA4紙にプリント切り貼りしています。講演会や行事の時も使い会全体が分かり易いと好評です。(にじの会)

会報とはひとあじ違う情報発信ツールです。是非、参加しましょう！

※親の会紹介ポスターの申込みと送付先、親の会懇親会については、別途案内します。

中部ブロック紹介

昨年度は、愛知でLD学会、岐阜で教材教具研修会が開催され、連携して取り組むことができました

アットホームな活動

あいちLD親の会かたつむり

かたつむりでは、「おしゃべり会」というフリートークの場を大切にしてきました。青年部は毎月第1日曜日を定例会にして続けています。また世代別のグループを超えた集まりとしては、2か月に一回のニュース発行の時に「全体おしゃべり会」を行っています。そこでは、「支援学級に在籍しているが、中学校から普通級に行きたいと本人が言っているのでしょうか?」「上の子が宿題する時、下の子(幼児)の声が気になりなかなか進まない、いろいろ工夫はしているが、良い方法はないか?」「高校生の息子に、障害を理解させるのが難しい。どう対応していくとよいか。」など毎回いろんな話が出ます。進路についても、子どもとどう向き合って決めたか、同じ年代の子を持つ親からの話や先輩お母さんの体験など、他では聞けない本音トーク盛りだくさんです。心の整理をするのに、話す事はとても重要な…と実感しています。ほぼ毎回新しいお母さんが参加されますが、安心して話すことができ、また聴くことができる、そんな場を提供できているかと思えます。子どもたちや親の面白いハプニングが飛び出したり、本音トークを聞いてほっとしたり…。まるで気のいいお姉さんとお母さんの集まりみたいで、アットホームな場になっています。ここから、やってみたい事などの声も出て活動につながって行くこともたくさんあります。これからもおしゃべり会を大事にして続けていきます。

活動紹介 ～野外学習の事前体験～

岐阜県LD親の会れんげの会

れんげの会は、設立して4年目を迎えたまだ新しい会です。まだまだ子どもの居場所づくりは課題ですが、活動の一つとして、毎年ゴールデンウィークに、野外学習の事前体験を行っています。岐阜県内では小学校4・5年生になると、学校の体験学習の一つとして自然の家などで宿泊をしての野外学習を行います。「れんげの会」では、会員の子も達達が少しでも活動の見通しや自信をもって参加できるように、野外学習の活動の一部を親子一緒に体験します。

内容は、かまどを使つての炊飯やカレー作りを体験します。また、キャンプ用テントの設営から撤収までを、親が見守る中、子ども達だけでやります。子ども達は、所員の

方の説明で設営の手順がわかり、見通しをもつことによって、丁寧に作業ができます。小グループごとにかまどの火おこしから始まり、カレーとご飯を作ります。出来上がった時の子ども達の嬉しそうな顔と自信に満ちた顔は、とても素敵です。テント張りも、声をかけ合つて頑張れる子ども達に、親もビックリするほどです。

一人一人の子に、できたことや頑張りをほめ、また協力し合うことの楽しさや喜びを感じさせることによって、自信をもって野外学習に参加できることをねらっています。



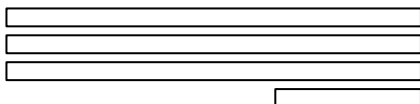
大切な居場所

三重県学習障害児・者親の会ハナショウブの会

ハナショウブの会は1992年に発足し、19年目をむかえました。発足当時は、同じ悩みをもつ親同士がいろいろ話しあう場として、月に一度例会を開き、日ごろの悩みを話したり、理解してもらおう為の周囲への働きかけについて話し合ったりしていました。

それから少しずつ会員も増え、小学生の子ども達が例会に顔を出すようになると、ボランティアの先生の協力もあり、親が例会をしている間、子ども達は別の部屋で勉強やコミュニケーションのとり方等を学ぶ…というスタイルになっていきました。その当時入会した子ども達も今では高校生です。子ども達が大きくなった事や先生の都合もあり、「勉強室」は卒業となったため、今度は発達障害の子ども達の居場所として、子ども達が楽しめる活動を企画する例会のスタイルが変わっていきました。様々なタイプ・年齢(高2~35歳)の子がいる中で、みんなが楽しめるというのはなかなか難しいですが、2ヶ月に一度、バーベキューや電車に乗つてのお出かけ、調理や買い物学習、パン教室やカラオケ等、楽しい時間を過ごしています。

ただ、残念な事に新しい会員さんが増えず、今の子ども達がどんどん大きくなっていくだけになりそうなので、また、会の活動の仕方も変わって行きそうです。現在、会員12家族の小さな会ですが、このハナショウブの会がずっと子ども達の居心地のいい居場所になるようがんばってきたいと思います。



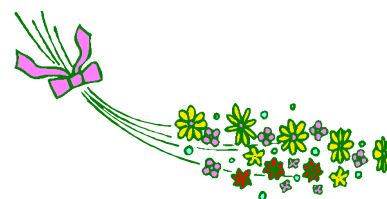
東日本大震災で被災されました各会の皆様に
謹んでお見舞い申し上げます。



余震が今なお続く中、とても過酷な毎日をおくっておられるのではと心を痛めております。
これから親の会の仲間として、私たちに何ができるのか考えています。親の会の活動を続けていく
ことが困難な状況になることがあるかもしれません。ご不安なこと、ご心配なことがありましたら、ぜひ、
全国LD親の会の理事、評議員まで、ご連絡いただき、ご相談いただければありがたいです。
これから復興へのみちのりは長くなるでしょうが、知恵をだしあい、助け合って活動を続けていき
たいと思っています。

NPO 法人全国LD親の会 理事長 内藤 孝子

●NPO法人全国LD親の会 活動報告



- 1月 20日 「かけはし」68号発行
- 1月 22-23日 ボランティア支援員養成講座（内藤、山岡、井上）
- 1月 16日 全国LD親の会公開フォーラム in 福岡(内藤、大曲、梅野)
- 2月 4-6日 アメニティーフォーラム15参加(山岡、内藤、)
- 2月 6日 サポートツール全国キャラバン 2010「教材教具研修会」in 徳島
- 2月 20日 NPO 法人全国LD親の会第7回役員会、NPO 法人全国LD親の会第8回理事会
- 2月 24日 2010年度社会福祉事業研究開発基金事業報告書を提出
- 2月 26日 サポートツール・データベース事業 運営会議と公募審査会(内藤・井上)
- 2月 27日 特別支援教育講演会 in 大分 ・大分県LD等発達障害親の会設立準備会(大曲)
- 2月 28日 日本テレビ放送番組審議会に意見書を送付
- 3月 3日 日本財団2011年度助成決定「発達障害児のためのサポートツール・データベース事業」
- 3月 6日 特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業第3回実行委員会(内藤・山岡)
- 3月 10日 文部科学省「特別支援教育ネットワーク推進委員会」(内藤、山岡)
- 3月 10日 「親のQOLと支援に関する調査」(お茶の水女子大学大学院 篁倫子先生)に協力(250名)
- 3月 15日 2010年度「特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業」報告を文部科学省に提出
- 3月 19日 岡山県LD等発達障害親の会準備会(内藤、井上、高橋)
- 3月 23日 「特別支援教育支援員、ボランティア支援員養成事業中間報告書」発行
- 3月 31日 「教育から就業への移行実態調査報告書Ⅲ(全国LD親の会・会員調査)」発行

教育から就業への移行実態調査報告書 Ⅲ(全国LD親の会・会員調査) 発行！！

発行：2011年3月31日

体裁：A4版 114ページ

内容：第Ⅰ部 保護者対象調査

調査の概要、支援制度の利用状況(2003年・2006年・2009年)、後期中等教育・高等教育の状況、
移行の状況、現在の状況(2003年・2006年・2009年)、地域による比較(9地域)

第Ⅱ部 本人対象調査

調査の概要、高等教育における状況、就職準備の状況、就業や自立に関する取り組みや意識
資料編 保護者用調査用紙、本人用調査用紙

発行部数:4,000部

贈呈先:調査協力者(所属親の会を通して配布します)、各親の会、関係機関

販売価格:1,000円(全国LD親の会のHP上で購入方法をお知らせの予定。各親の会へは別途ご案内します。)